

## 第4分科会

### テーマ：地域連携、人材育成・普及啓発における工夫事例

No.	題名	地方ブロック	水系名 河川名	直轄／補助 (級別)	河川概要				はっぴょうしゃ 発表者	所属部署		事業の概要
					河川の 流域面積	河川分類	整備計画流量※1	セグメント※ 1		機 関	部・事務所	
1	今後の河道掘削箇所における設計段階での取組	北海道	沙流川水系 沙流川	直轄(1級)	1350 km <sup>2</sup>	大河川	4500m <sup>3</sup> /s (W=1/70)	2-2	オクヤマ 奥山 ミユ 美優	北海道開発局	室蘭開発建設部 苫小牧河川事務所	地域に根付く文化や、多様な計画・事業が関係している箇所での河道掘削設計段階において行っている、地域との調整等の取組。
2	竜の口渓谷における多自然川づくり(魚道整備等)の取組み ～切欠き魚道の開発と人的ネットワーク作り～	東北	名取川水系 広瀬川1次支川 竜の口渓谷	補助(その他)	2.5 km <sup>2</sup>	中小河川	整備計画：なし (流下能力)47m <sup>3</sup> /s (W=1/35)	M	おおみや 大宮 ひろき 裕樹	仙台市	建設局 百年の杜推進 部 河川課	・竜の口渓谷と広瀬川の間には床止め(落差2.4m)があり、水域連続性が未確立であった。そこで、魚類の遡上環境の創出を目的に既存施設の部分改修による低コスト型切欠き魚道を整備した。その結果、床止め上流で新魚種(ヨシノボリ類)の定着・生息を確認した。 【工夫点】①小規模自治体でも設置可能な低コスト型切欠き魚道の開発、②魚道整備を通じた「人的ネットワーク作り」(市民や土研と連携した順応的管理、内外への積極的情報発信で新たな切欠き魚道整備に着手)
3	荒川流域エコネット地域づくり推進協議会の取り組み紹介	関東	荒川水系 荒川	直轄(1級)	2490 km <sup>2</sup>	大河川	6500m <sup>3</sup> /s (W=1/200)	2-2	シンボ 新保 ミナコ 美奈子	関東地方整備局	荒川上流河川事務所	・荒川流域エコネット地域づくり推進協議会は関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会の流域エリア協議会の一つとして平成29年度に設立された。 ・令和2年度にアクションプランを策定し、今年度より活動を開始していることから活動の状況を、また併せて当協議会の活動範囲内にて荒川上流河川事務所が「荒川中流部自然再生」として実施する湿地再生について紹介
4	多自然川づくり意識の普及に向けて～若手実務者向け事例集の作成～	中部							むらた 村田 あかり 明梨	中部地方整備局	中部技術事務所	・中部管内の良好な多自然川づくり等の事例を元に若手が多自然川づくりに興味を持つきっかけとなるような事例集を作成。 ・事例集の作成に当たってはより若手実務者に寄り添った事例集とするため若手を中心とした企画会議や意見聴取を行い、若手の意見を取り入れながら作成を行う。
5	瀬・淵を意識した河床掘削についての職員研修の取り組み	四国							つわいし 常石 あきら 晶	高知県	土木部河川課	河床掘削は河床の人為的に攪乱により、河川環境に多大な変化が生じるため、目標とする物理環境を考え瀬・淵を保全・再生・創出することが重要である。本年度、河床掘削をテーマに多自然川づくりの職員研修に取り組んだ事例を紹介する。
6	地域とともに川と人とのつながりの再生へ ～宮崎市街部の河川活動を事例に～	九州	大淀川水系 大淀川	直轄(1級)	2230 km <sup>2</sup>	大河川	9,100m <sup>3</sup> /s	2-2	アベ 安倍 トモヒロ 朋弘	九州地方整備局	宮崎河川国道事務所	・河川協力団体主体の貴重種保全活動の課題 ・河川活動と道路事業の連携による課題解決 ・地域主体となった水辺の賑わい創出事例
7	大聖牛設置による効果のモニタリングと伝統的川づくりの継承への取り組み	九州	一ツ瀬川水系 三財川	補助(2級)	852 km <sup>2</sup>	中小河川	1600m <sup>3</sup> /s	2-2	サドワラ 佐土原 ヒロト 寛人	宮崎県	県土整備部 西都土木 事務所	・伝統的工法による既設護岸の保護と、複雑な水際線の形成による多様な水生生物生息環境の創出